

第 6 回報告書

2024 年 12 月

伊藤絵美



(高校同期が日本から遊びに来てくれたときに撮ってくれた写真)

1. はじめに

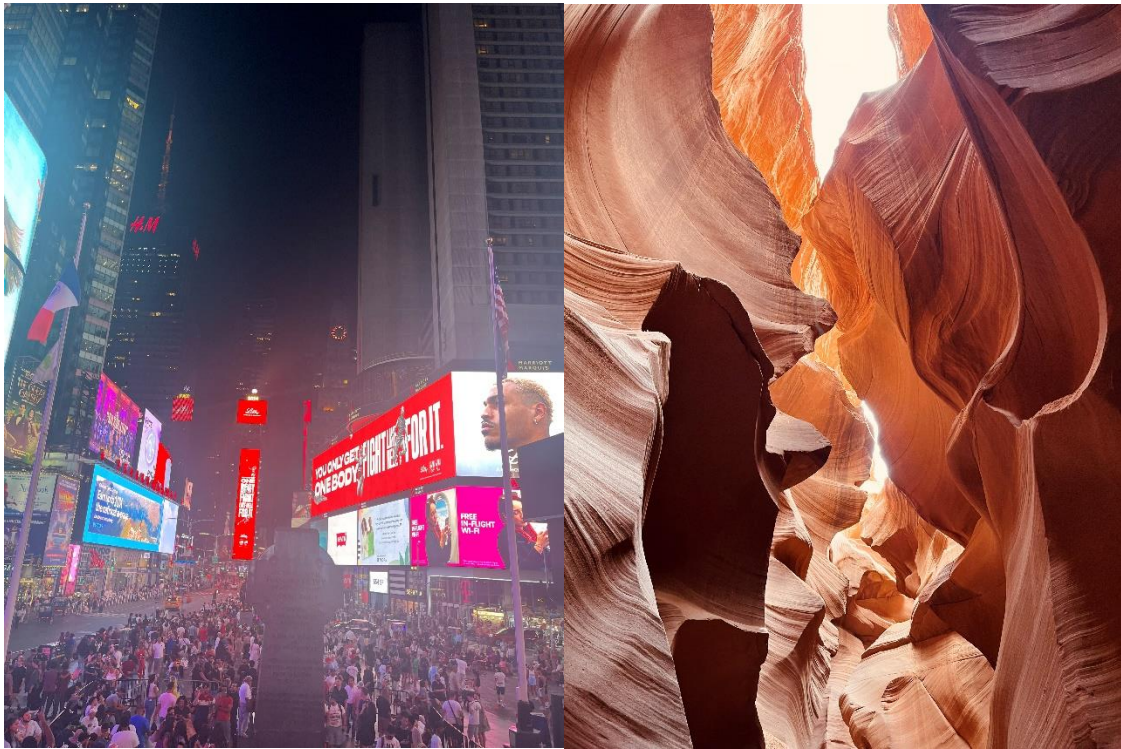
カリフォルニア大学バークレー校で Chemistry の PhD をしている伊藤絵美です。3 年目に入っていつまでも後輩のスタンスではいられないことをひしひしと実感し、学年に見合った研究者へと成長できるようにもがいているところです。

2. 生活

2.1. 米国大学院学生会の活動

米国大学院学生会の代表として 2024 年夏の海外大学院留学説明会を行いました。現在も冬の留学説明会の準備を進めています。私の代表の任期のうちに PhD 留学の情報をより一層広められるよう工夫していきたいと思います。また、夏の財団の交流会で奨学金の後輩に対面で会うことができ、米国大学院学生会の活動に協力してくれる人を一気に増やすことができました。PhD 留学している同志と数多く知り合える機会を与えてくださる財団に改めて感謝したいです。

2.2. アメリカ国内旅行



(左：ニューヨークのタイムズスクエア、右：アンテロープキャニオン)

TA や授業履修、qualifying exam 等 PhD プログラムの研究以外の義務が終わり、時間を比較的自由に使えるようになったので、西海岸より遠出してニューヨークやラスベガス、グランドキャニオン周辺の渓谷に行くことができました。同じ国とは思えないほど都市によって雰囲気が違って面白かったです。また、アメリカの自然の広大さに魅了されました。研究の息抜きに今後も色々な都市に行ってみたいです。

3. 研究

前回の報告書に先輩の論文の追加データを取るのに追われていたと書きましたが、無事 Journal of American Chemical Society に掲載されました (<https://pubs.acs.org/doi/10.1021/jacs.3c11678>)。アメリカに来て初めて自分の名前の載った論文が出たのでよかったです。

自分の研究テーマについても、以前よりラボの先輩方の力に頼りすぎず自発的に次の手を考えられるようになってきました。引き続き、単分子磁石の新たな設計指針を見出すための研究を続けています。より具体的には、fブロック金属元素間の相互作用と配位子場を利用して磁化緩和が遅い分子を設計・合成し、合成した分子の磁性を評価する日々を送っています。自分の研究テーマの詳細を報告書に書けるようにまずは論文化を目指して精進していきたいと思っています。

4. 最後に

PhD 生活も中盤に差し掛かり、卒業後の進路のことも考えるようになってきました。船井情報科学振興財団の支援期間の 2 年は終わりましたが、奨学金の先輩方の姿が大変参考になっています。PhD プログラムの研究以外の義務は完了したので、博士号取得に向けてより一層研究に邁進したいです。